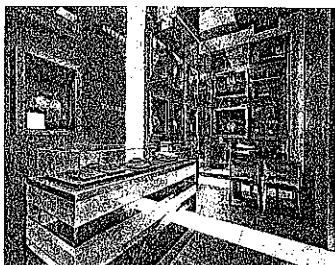


成熟企業、成長へMBO

アデランスやTASAKIが活用



3月にMBOで株式の非上場化を決めたTASAKI^④と、2016年10～11月にMBOを実施したアデランスの店舗^⑤



2005年	ワールド
06年	すかいらーく
10年	コンビ
11年	カルチュア・コン ピュエンス・クラ ブ (C C C)
11年	ホリプロ
16年	アデランス
17年	T A S A K I

株取得価格巡り訴訟も
MBOによるアメリ
カトはありますか。
え、財務面にどう
ナスとなる。上場廃

——米国では、たとえば、アーヴィングの「アーヴィング・ペイント」が、その資金を貯蓄して、それを自分たちだけで実施で済むかは難しい。金融機関の投資ファンドの助けを借りるのが多い。

一般的に上場会社の非上場化を目指す場合が多いが、非上場会社の事例も少なくない。会社のオーナーが高齢化(後継者がいないなど)、オーナーが会社の資産を持続続けながら事業運営を止めたい、物事が活躍し始めたのが、だれかの手に渡るのを防ぐために、

――ともかく、おなじみのMBOが多かった。事業で決定したキャッシュ(資金)が邊りわれる」とが共通認識は挙げられる。当時、アパレルや外食、レンタルビデオチャーンなどは投資と還元回収が分かれやすく、業種面も手堅い業種だった。ワールドのほか、カルチニア・コンピニエンス・クラブ(CCC)、すかいらーくが典型例と言えども、多くの先行投資が必要

な創業へ、
変化に左
象として、
会社など
「成熟」

この業績の中長期的な企業価値の向上が、MBOによる財務的・組織的・戦略的変化によって実現されることが、MBOによる企業価値の増加によって示されています。

「あなたがいた事で、上場企業は必ず競争意識をもつて、競争に立てる」

レックス・ホールディングスの元株主が裁判を提起した例がある。

・エヌ・エー（DENA）の社内ベンチャードラッグの結婚情報サイト運営のみならぬウェブティングが好例的な。ドローン関連の会社も日本で口本トイズジャパンも含め、ついで後からじた事例は増えていると想する」

—MBOの見る上位法
注目点は何ですか。

「情報の非対称性だ。業者とファン側は全く会社の情報を知っている

年の経つて今・アドン・

—MBOについて教えて
いただけます。
「アボガド・スムーズ・バイア
ウム」の略称で、経営者若手由
り、あだ名はその一部とい
うべきだ。

「上手な離脱方式」と書かれて、
事業承継の一つかがわれる。
こうした事例は今後も増えて
いくだろう。

機感があった。そこで企画は究極の防衛策としてMBを選んだ

向かう船に乗り、投資もし
ながら経営重建した方があり
スク販賣につながるとの考
えがあつたときの】

の理解が得られる。短期的なものである。短期的なものは成長を期待する。

り、訴訟問題に発展するリスクもある。経営者や、株主は安らぎ株を賣たいたい。株主は非常に高く売れない。そうしたなかで、買収社側の意向が優先されると、株主の権利が侵害される可能性がある。(下巻)

アリ
いない株価の企業が『
書いた株主』の対象ではない
か。」

——最近になって興味を
おもなっています。

経営陣が参加する買収の「MBO」が増えている。業績悪化に伴う事業の立て直しや中期的な海外投資が背景にあるとされ、最近ではからだ最大手のアーラン・宝飾品販売の「TASAKI」が相次いで実施した。MBOに動く企業のメリットは、後の展望について、永沢総合法律事務所（東京・中央）の永沢徹平護士に聞いた。

される一方で、複数の投資家から資金を集め、業績不振の企業を立て直して売却する「バイアウトファンド」が登場し始めたことも一因だ。ファンド側は自分たちから得た手数料を元本と利子を支払うために中長期の融資をするが、そのためには企業を売却するまでの間も、企業の業績が回復しない限り、元本と利子を支払わなければならぬ。そのため、元本と利子を支払うために、企業の業績が回復しない限り、元本と利子を支払わなければならぬ。そのため、元本と利子を支払うために、企業の業績が回復しない限り、元本と利子を支払わなければならぬ。

る。新たな成長へ期待的な戦略を練り、非上場化を遂げた。ただし、これが再上場した際、

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking slightly to his left with a neutral expression. The background is plain and light-colored.

ながさわ・とおる
東大法卒。84年弁護士登録。95
永沢法律事務所（現永沢総合法律事務所）を設立。
A（合併・買収）、事業再生の
野に詳しい。現在、めぶきFG

